

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <岩手県 めん類 >
消費動向は引き続き厳しい状況にある。業務用、お土産品、ギフト等売上の回復は鈍化傾向で、スーパー、生協等小売店も同様である。
2. <東京都 カレー粉 >
外食用の業務用需要が激減し、巣ごもり家庭用需要はカレールーやカレー粉需要が一段落した。更に最近の円安に加え香辛料の収穫が減少しているため値上がり傾向にある。
3. <新潟県 醤油 >
10月の売上は、醤油・生揚げの売上が前年比増加したものの、醤油加工品の売上が減少したため前年並みとなった。経費も原料の値上りに加えて、重油が高騰しており苦しい状況が続いている。
4. <山口県 パン・菓子 >
前年度に比べると、観光土産菓子、企業・法人の出張土産需要が若干戻ってきた。イベント等も始まりつつあるが、法要の動きなど、以前の景況感には程遠い。
5. <福岡県 野菜缶詰・果実缶詰 >
原材料の値上げの影響が大きい。包材に使用する原反の不足により、製造への影響が出始めている。
6. <鹿児島県 味噌醤油 >
10月になり消費の回復に期待したが、昨年並かそれを下回る売上で推移したようだ。飲食店等の業務用需要がまだまだ厳しく、一般小売りも消費者の買い控えが続いている。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
10月は展示会等の状況は改善しているようだが、実際の発注増にはなっていない。現在のところ回復の兆しは見られず、当分の間厳しい状況が続く見通しである。
8. <東京都 洋服 >
アパレルメーカーによって発注量が少し増加している。ただし、人手不足のため受注量を制限している企業が出始めている。
9. <岐阜県 婦人子供服 >
昨年は10月が一時的に回復したため、昨年対比は70%しか届かない。得意先の売場構成、商品構成が大きく変化しているため、変化に対応できないと厳しい。
10. <島根県 アパレル等 >
縫製業界は先月と同じような状態が続いているが、外国人実習生の入国が停止されている関係で人手不足になっており、その対応に苦慮している。
11. <愛媛県 タオル >
新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたことにより、回復の兆しを感じる組合員も増えてきたが、業況が好転するにはもう少し時間を要すると思われる。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
緊急事態宣言の長期化により、購買意欲が落ちていると感じる。県内需要が占める割合は大きいですが、昨年からの入域観光客数の落ち込みが長期化していることも需要の低迷に響いている。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材 >
ウッドショックの影響で国産材への代替需要が発生し、県内の製材所では依然としてほぼフル稼働の状況が続いている。製材品の動きが活発なことから、原木（丸太）の価格が上昇傾向にある。
14. <東京都 建具 >
資材の品薄、高騰が依然として続いている。一方、住宅リフォームや飲食店の改装工事などの仕事量が増えつつある。資材の共同購買事業の売上も低迷が続いていたが、10月は増加に転じた。
15. <三重県 木材 >
本年春頃より続くウッドショックにより、依然として外材が入手しづらい状況にある為、国産材に対する需要は旺盛で、前年同月比では原木、製品共に高値で推移している。

16. <和歌山県 家具 >
自粛による経済の停滞感が薄れ、ようやく店舗等の内装工事の計画が増加してきた。来春に向けてはある程度の需要が期待できそうだ。
17. <鳥取県 製材品 >
製材用素材の入荷量、製材品の生産量はともに前月比で増加、合板の生産量も前月比で増加している。原木価格は高止まりが続いており、製材品価格も大きな変動はない。
18. <熊本県 一般製材 >
10月は、仕入原木量が前月とほぼ同量であるが受注生産量が大幅に増加しているため、在庫が減少している状況。これまでの在庫が売上になっているため、キャッシュフローは好転している。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
10月は生産数量が減少しており、前年同月比で1割近く減少している組合員もいる。全体的に当月はお客様の商品の生産が少なく、それに伴って商品を入れる段ボールの生産も減少した。
20. <岐阜県 紙加工品 >
売上は昨年と比較して増加しており、半数近くの組合員が、コロナ禍前の90%まで戻ったと聞いている。借入の元金返済が始まる迄に景気が回復しないと不安だと心配している組合員も多くいる。
21. <愛知県 段ボール >
感染者数の減少と共に、人の動きが出てきて全体的に明るさが増してきた。土産物関係では県民割の実施から対前年を上回り、例年の70%程まで回復してきた。今後少し期待が持てそうだ。
22. <三重県 紙器段ボール >
先月同様、半導体供給不足により、自動車、電機関係で生産調整が行われ、段ボールケースの需要も減少が続いている。会員企業の実産量は5~20%程度、前年対比マイナスである。
23. <京都府 紙製容器 >
緊急事態宣言の解除を受け、菓子、お土産、イベント関連の受注が回復傾向にある。新聞等で、「古紙が不足、段ボール原紙が値上がりしている」と記事になっており、今後の値上がりが不安である。
24. <大阪府 古紙収集加工 >
10月の裾物古紙の発生は悪かったが中旬過ぎから大分良くなってきた。しかしコロナ禍のリモートワークでペーパーレス化が加速しており、白物古紙の発生は低調である。

印刷

25. <宮城県 印刷・同関連 >
原油価格の上昇に伴い、原材料価格が上昇している。インキや印刷に使用される刷版は既に価格が上昇。用紙も一部で値上げ交渉が始まっており、今後本格的な価格上昇が見込まれる。
26. <栃木県 印刷 >
未だ続くコロナ禍の影響により、印刷物受注の大幅な減少や各種イベント等が開催されないことにより各社深刻な状況が続いていることで危機意識がさらに強まっている。
27. <東京都 金属印刷 >
緊急事態宣言が解除され、感染者も大幅に減少しているが、景況の回復には時間がかかる。鋼材、石油、印刷用各諸資材の価格高騰で収益が悪化している。
28. <富山県 印刷 >
売上、利益は平均すると不変だが、顧客層の違いによる格差が出ている。インキなど印刷材料の値上げが始まり、3年ぶりとなる用紙の値上げも発表され、景気回復に水を差す動きとなっている。
29. <徳島県 印刷 >
例年と比べると10月も売上は芳しくない厳しい月となったが、最近、ようやくコロナ禍の長いトンネルを抜け、景気の上向き気配を感じられるようになった。
30. <宮崎県 印刷・同関連 >
原油価格高騰により仕入価格の上昇が通告されるようになった。紙製品、インク、印刷材料等、すべてにおいて値上がりしている。更に最低賃金の上昇等により、ますます経営が厳しい状況である。

化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品 >
原油価格の値上がりの影響を大きく受けなかったことや、感染者数の減少に伴う外出機会の増加の影響を受け、組合員各社の売上は概ね順調、グルコサミン関連は特に好調であった。
32. <滋賀県 アスファルト合材 >
原油価格上昇に対して、値上げが難航している。一方で、工事数も減少している。

33. <京 都 府 プラスチック製品 >
 個社別に見ると増収のところが多いが、業界の景況としては不変である。原材料の入手難が未だに続いている。
34. <大 阪 府 石鹼洗剤 >
 コロナの影響で大きく伸長してきた手洗用液体石鹼は、コロナ特需の反動で引き続きマイナスとなっているが、住宅・家具用合成洗剤は、前年を大きく上回り堅調に推移している。
35. <和 歌 山 県 化学工業 >
 対前月比で医薬品中間物、高分子、精密化学品が好調で、出荷量28.1%、出荷額43.2%の大幅な伸びであった。第6波が懸念されるものの、少しずつ経済活動が正常に戻りつつある。
36. <広 島 県 プラスチック製品 >
 コロナ禍で半導体や自動車部品が不足している。自動車の減産により売上は大幅に減少の傾向にある。回復の状況は不透明である。自動車以外は堅調に推移している。

窯業・土石製品製造業

37. <北 海 道 窯業・土石製品 >
 10月は比較的多忙な月であったが、細かい仕事が多く売上高としては減少、人材確保にも苦慮している。住宅着工戸数は昨年より伸びているが、一昨年には届かない状況である。
38. <岩 手 県 生コンクリート >
 一部地域を除き民需が増加しているものの、官需は減少地域が多く、依然として前年の4分の3程度の出荷量が続けている。
39. <石 川 県 粘土かわら >
 10月度は天候が良く、屋根工事が出来たことから出荷量が増えた。反面、瓦を焼成する為に使用しているガスが高騰しており、収益面に大きな影響が出ている。
40. <岐 阜 県 碎石生産 >
 10月の生産量及び出荷量は、前月比でそれぞれ118.0%、117.8%と増加し、前年同月比でも生産量及び出荷量ともそれぞれ112.1%、109.8%の増加となった。
41. <徳 島 県 生コンクリート >
 10月は昨年同月と比較して約16%減少。要因としては新規物件や継続工事、大型工事の減少によるところがあるが、全体的に公共工事の減少により今後も出荷量は減少傾向にある。
42. <宮 崎 県 窯業・土石製品 >
 民間大型物件の引き合いにより、出荷数量及び利益ともに前年比120%増となっている。年度末にかけての公共工事は期待薄であり、民間頼みの構造は今後も続くと思われる。

鉄鋼・金属製造業

43. <秋 田 県 鉄鋼 >
 鉄骨材料の価格上昇が続いているため、原材料価格の上昇分を製品価格に転嫁出来ていない会社が出始めている。また、材料の需要増のため供給が間に合っておらず、納期に影響が出ている。
44. <東 京 都 金属製品 >
 取扱量が減少し、前年同月比で売上高が減少した。在庫が減少し、品不足により販売価格は上昇した。契約分が逆ザヤとなり収益は悪化しつつある。
45. <富 山 県 鋳鉄铸件 >
 铸件生産量は回復してきているが、原材料の鉄スクラップや鋳鉄の高騰により、取引先との製品価格値上げ交渉の対応に苦慮している。
46. <滋 賀 県 機械部分品 >
 バルブ業各社の生産高は増加、設備の操業度も上昇してきていて、業界全体としては、好転に向かっている模様である。但し原材料及び燃料の価格上昇が懸念材料である。
47. <岡 山 県 鉄工 >
 原材料費、原油・石油製品の価格上昇により、収益を圧迫している。また、市場の競争が激しく、販売先との交渉も困難であるため、価格上昇分を製品価格へ上乗せできない状況が続いている。
48. <熊 本 県 異業種 >
 リン系燃料剤が海外から調達困難になっており、プラスチック、樹脂の材料納期が3～4カ月要している。中国の生産量が1/10になっている影響が大きいと思われる。

一般機器製造業

49. <栃 木 県 一般機械器具 >
 前年同月と比較し、全般的に売上高は増加傾向となっているが、仕入れ資材の高騰並びに一部調達が困難な状況を見受けられ、操業度（稼働）に影響を受けている企業がある

50. < 埼玉県 一般機械機器 >
緊急事態宣言解除による影響はまだ見られていない。東南アジアを中心に経済活動が制限されたため、部品や素材の供給が停滞しており、収益面では厳しい状況が続いている。
51. < 新潟県 機械器具 >
半導体製造装置関連の受注が増えているが、電子部材の調達難により計画通りの生産ができていない。原材料の不足から稼働率に波が出ており生産的に厳しい状況である。
52. < 石川県 機械工作钣金加工 >
工作機械の受注は前月比103.2、前年同月比181.5となっている。受注高だと2018年8月以来最高額となっている。コロナ禍にて控えていた設備計画が再燃している状況のように思える。
53. < 京都府 一般機械器具 >
売上高は上昇傾向にあり、受注量も安定している。しかしながら、2～3カ月先の見通しについては生産調整が入るなど不安材料があり、自動車関連の生産調整の影響が表れつつある。
54. < 大分県 カメラ >
カメラ部門・自動車部門の工場生産について、半導体不足等により生産計画が変更となり、実習生の受入要員計画の見直しをしている。

電気機器製造業

55. < 群馬県 電気機械器具 >
半導体製造装置の需要は来年末まで充足の見通しであるが、使用する部品の入手が課題となっている。造船関連では、客船に動きはみられないが、貨物向けタンカーの需要が戻りつつある。
56. < 山梨県 電気機械器具 >
前年同月と比べ、売り上げ、収益ともに悪化した。半導体の供給不足や部材の納品が遅れていることから、半完成品の在庫が増えている。
57. < 長野県 電気機械器具 >
昨年度に比べると売り上げは増加してきているが、ここへきて材料不足が発生してきており、注文が来るが製造できないという現象が起きている。半導体不足もまだ解消していない。
58. < 静岡県 電気機械器具 >
東南アジアのロックダウン影響によって、大型冷蔵庫の生産が2週間停止されて大幅な減産となった。回復の目処は立ちつつあるが当面不安定な状態が続くと思われる。
59. < 愛知県 配電盤 >
原材料の値上げにより、やむなく販売価格に転嫁せざるを得ない状況になって値上げに踏み切る会員が多くなっている。一方で、コロナ不況で売れず、スタグフレーションが現実味を帯びてきた。
60. < 広島県 電気機械器具 >
10月の売上は前月比5%増加、前年同月比10%増加となった。各種機械生産が国内外とも回復基調で、電機機械、部品生産も順調であった。一方、部材高騰や納期長期化といった不安要素もある。

輸送用機器製造業

61. < 群馬県 自動車・同附属品 >
主要自動車メーカーの生産台数が半減したことにより、下請企業は厳しい状況におかれている。雇用調整助成金の下支えが必要になっている。
62. < 神奈川県 指定業者(船舶) >
国内造船業の就労者数が減っており、オイルショック前比6割強減少している。中韓との競争激化、コロナ禍の商談停止、鋼材価格の高騰等が大きな要因と思われる。
63. < 静岡県 輸送用機械器具 >
新型コロナウイルス感染症の減少に伴い生産活動の安定化を模索中である。海外での感染の再拡大にともない、国内での再拡大の懸念があり組合事業活動の再開など悩ましい状況にある。
64. < 愛知県 輸送機器 >
車関係各社は新型コロナウイルスの影響で部品調達が遅れ、減産が続いている。半導体、部品不足が年末に向け更なる拍車をかけるか不安視している。また、原油高も心配である。
65. < 三重県 輸送機器 >
相変わらず一部の自動車メーカーでは、海外からの部品の供給不足で生産調整を余儀なくされており、取引先の一次下請各社も交代で休業している状況である。
66. < 山口県 鉄道車輛・同部品 >
鉄道車両関係は、現状は順調であるが、コロナ禍の影響で国内外ともに2～3年先の新車両計画が不透明な状況である。感染予防対策等、業務外のことが負担となっている。

その他の製造業

67. < 福島県 漆器 >
ネット販売は前年比低調だが、事前に商品を確認した後に来店、購入する流れも目立つようになった。昨年のG・O・Tキャンペーンほどではないが、一昨年の消費税増税時よりも良くなっている。
68. < 福井県 眼鏡工業 >
米国経済の回復基調は変わらず、米国向け出荷はほぼコロナ禍前の水準を維持している。国内も前月に引き続き回復基調にあるものの、小売店サイドは慎重な発注状況である。
69. < 愛知県 アウトソーシング >
自動車製造において、海外からの部品調達遅れ、半導体不足による生産調整は目処がつき、11月以降はその生産調整した分、今後は土曜日出勤など巻き返しで多忙になると予想する。
70. < 兵庫県 その他 >
10月は気候も良く釣り人が徐々に増加し、釣具店の売上也好調であった。一方で、釣針業界は資材（銅線、錫、鉛等）が大幅な値上げとなり、更に線材の入荷が大幅に遅れる状況が続いている。
71. < 奈良県 毛皮革 >
毛皮加工の販売量は年々減少傾向となっているので、積極的な商品開発・販売体制を整える必要がある。鹿皮は、中国から原皮の輸入の目途が立たず、ニュージーランド等から輸入している。
72. < 香川県 綿寝具 >
10月は前年同月比、小売業の売上が上昇し、インターネット販売も前月比上昇した。コロナも大分終息し顧客の来店も増えている。また、気温が下がってきたことも景況の好転につながっている。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 再生資源 >
9月からの鉄スクラップの価格上昇は、10月に入り全国的にその様相を強め、13年2ヵ月ぶりの高値を記録し、需給不足感が続いている。段ボール古紙の発生減少が目立った。
74. <福島県 再生資源 >
古紙市場の国内需要は堅調に推移し、消費も増加基調である。年末に向けて回収増を期待している。鉄スクラップ市況は10月も強基調で、電炉メーカーは鋼材値上げの動きがある。
75. <東京都 包装用品 >
他業種では前年を上回る売上のある企業もあるようだが、包装業界では前年を上回る売上がある企業はごく僅かである。緊急事態宣言などが解除されたが、対面営業を断る企業もまだまだある。
76. <富山県 セメント >
山間地区の出荷は下期に入っても旺盛で、前年を上回り好調に推移している。野丁場は上期同様に目玉物件もなく、景況感はない。数量は伸び悩み傾向で、冬場の大幅減少の可能性は否めない。
77. <静岡県 セメント >
前月並の出荷量は確保したが、依然として厳しい環境は続いている。また、メーカーからエネルギーコスト上昇等で販売価格改定の動きがある。
78. <佐賀県 陶磁器 >
10月は、前年比22.96%増だが、コロナ禍前の前々年比では22.35%減となった。先月比では16.66%の増となり、緩やかではあるが組合員の中には注文の動きがみられるところも出てきている。原材料高騰の影響は懸念される場所ではありますが、11月以降、緊急事態宣言が解除されたことにより年末需要に向け共販取引数字に期待したい。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
月末の特売日では観光客や市外からの来客が増加した。飲食店の規制が解除され、全体として動き始めた感がある。そのため一部商品（輸入水産加工品等）の仕入価格が高騰が生じている。
80. <福島県 青果 >
先月の野菜単価の高騰から一転して例年並みの単価に戻った野菜が多く、売上の増加には繋がらなかった。山菜類もさほど高騰しなかった。まだまだ通常まで回復するには時間がかかる。
81. <富山県 食肉 >
外食需要が戻らず、PayPay還元等特殊要因がある場所以外は前年を維持することは厳しい現状である。輸入牛、国産牛ともに年末に向け更に価格が上昇傾向にある。
82. <山梨県 ガソリンスタンド >
原油の高騰が止まらない。市場価格に完全転嫁することができず、売上は増加したが、収益は悪化している。
83. <山口県 農業用機械器具 >
事業継続補助金の恩恵もなくなり、また米価の下落による農業者の購買意欲やモチベーションの低下が見受けられる等、業界の景況は悪化している。
84. <宮崎県 たばこ >
たばこ税増税による価格の引上げにより、10月から主要銘柄の大半は1箱570円以上となった。これを機に禁煙や節煙する人が出てくることが予想され、小売店への影響が心配な状況となっている。

商店街

85. <山形県 商店街 >
10月下旬から徐々に人の動きが出てきたように感じ、飲食店も週末にようやく人が集まり始めている。この状況が続けば、売上・収益の回復への期待感があり、政府の経済対策への期待も大きい。
86. <神奈川県 商店街 >
客足ペースで2桁近い落ち込みが続き、総じて各店舗売上の厳しさに変わりはないが、プレミアム商品券支援事業開始予定の11月下旬以降、商店街に多少でも人流が戻ることが期待できる。
87. <石川県 商店街 >
売上は前月や昨年と比べると増加している店舗が多いと見られるが、まだ本格的な回復には至っていない。人出も戻り週末は満車になる駐車場もあり、飲食店も賑わいを取り戻しつつある。
88. <兵庫県 商店街 >
飲食業が時間制限解除になったころから人出も少しずつ良くなり、売上高も戻って来ている。休業していた店舗も平常営業になり、全体的に明るさと活気が感じられるようになった。

89. <高知県 商店街 >
近県からの観光客が多いようだが、まだすみずみの個店に活気もどる程ではない。年末の商店街クーポン券を準備中で、地元の人出が増えるのを期待する。
90. <大分県 商店街 >
10月は時短要請解除により人出が戻ってきように見えるが厳しい状況には変わりがない。消費者の行動が相次ぐ時短要請で変わってきた。元に戻るにはもう少し時間が必要と感じる。

サービス業

91. <富山県 自動車整備 >
10月の自動車の新車新規登録・届出台数は、前年同月比で、登録車は75.0%、軽自動車は71.3%、全体で73.6%となった。車載用半導体不足、東南アジアの部品生産不足による計画減産が要因。
92. <山梨県 廃棄物処理 >
労働力不足から積載重量を増やし運搬効率を上げるため大型車両の導入を計画している組合員がいる。組合では運賃と作業料の区分を行政等にアピールし、適正な事業運営にすべく取組んでいる。
93. <三重県 測量 >
官庁からの発注量は例年並みである。大手企業との競争をするために、組合を設立したはずであったが、入札規制上、うまくいかない場合が多く、官からの随意契約がない限り、受注は難しい。
94. <滋賀県 広告 >
10月に入り当業界もコロナ禍の影響から脱した印象を受ける。コロナ禍における組合員補助の取組み等が評価され組合に復帰加入したい、あるいは新規加入したいという問い合わせもあった。
95. <高知県 旅行 >
組合クーポン前年同月対比59%、全旅クーポンを加味して62%。全国的に感染も落ち着きを見せているのでGOTOトラベル利用の再開が待たれる。
96. <長崎県 飲食 >
10月に入り一般客に加え修学旅行生が戻り、前年同月並みとなったが、コロナ禍前の▲50%であり完全には戻っていない。自由行動の時間がない小学校もある等、以前と違う動きも見られる。

建設業

97. <山形県 管工事 >
設備投資関連の受注減が続くなか、最低賃金の引上げや労働時間上限規制への対応もあり、雇用環境が厳しくなっている。
98. <埼玉県 鉄骨工事 >
仕入材料の鋼材価格が全国的に高騰し続け、今年に入って毎月の連続値上げで当初より40%強も上昇するなど異常事態が生じており、経営を圧迫するなど大きな問題となっている。
99. <奈良県 建築 >
家で過ごす時間が長くなったことなどを背景に、リフォーム需要に期待しているが、建築用の資材は原材料価格の高騰が続いており、様々な商品の値上げにより、見積もりを出しづらい状況である。
100. <広島県 工事 >
10月分の工事受付件数は前月比40.6%増加、前年同月比15.5%増加となった。太陽光発電の固定価格買取制度の締め切りが近く、駆け込み申込が増加したことが要因である。
101. <愛媛県 電気工事 >
全体の工事量は平年並みだが、半導体不足や海外のロックダウンの影響で、殆どの商品の入荷遅れが出ている。銅の高騰により、ケーブルや冷媒配管などの値上げが続いている。
102. <鹿児島県 管工事 >
水道管資材の価格が全体的に上昇している。9月から納期遅延が見られていた一部のメーカーの洗浄機能付便座・便器は、10月末も回復せず、11月以降も納期に影響を及ぼすこととなった。

運輸業

103. <青森県 貨物軽自動車運送 >
10月の業況は昨年同月と変わりがないが、観光関係の依頼が増えてきており、航空関係の仕事も戻りつつある。例年より単身の引越が1割程増えている。
104. <山形県 一般貨物自動車運送 >
高速道路利用は前年を3.3%上回ったが6月～7月のレベルには達していない。10月に入り燃料は大幅に価格を上げており、組合員の経営環境は更に厳しいものとなっている。
105. <新潟県 貨物軽自動車運送 >
組合の売上が上がらないので組合員にも直に影響が出ている。新型コロナウイルス前に比べて、企業や個人の考え方に変化が生じ、物流の考え方、やり方も変わってきている感じがする。

106. <大阪府 貨物運送 >
法人引越が1ヶ月程度ずれ込んで発生した影響で、引越件数および単価とも前年同等となり、売上高、収益とも増加した。
107. <香川県 タクシー >
県内のタクシー業界において営業収入は対前年同月比92.9%、輸送人員は92.9%と減少しており、新型コロナウイルス感染症の影響は、引き続き業界全体に厳しい経営状況を与えている。
108. <福岡県 道路貨物運送 >
国内の軽油値上げがトラック事業者の経営を圧迫している。10月軽油単価交渉では大幅な値上げが予測され、特に長距離を走る運送事業者にとっては大きな打撃となる。

その他の非製造業

109. <宮城県 不動産 >
低金利政策のため、不動産購入の引き合いが多くなっている。土地は高止まりというより、仙台駅を中心として仙台市営地下鉄南北線及び東西線沿線では値上りが顕著である。
110. <千葉県 輸出入 >
緊急事態宣言が解除となり、新型コロナウイルスの収束が進んできた。しかし成田空港は、依然入国制限等により旅客数は伸びず（対前年同月比131%）引き続き店舗を休業している。
111. <神奈川県 歯科技工 >
前年同月比売上は増加したが、仕入価格、ライフライン、ガソリン代等経費増で収益は不変。景況は「悪化寄りの不変」になる。本組合も中間決算では、前年比売上減で収益状況は悪化した。
112. <岡山県 信用組合 >
飲食店は売上回復せず補助金受取り等も難しくなっており、厳しい資金繰り状況にある。アフターコロナに向けた資金に対応する為、組合員にヒアリングを行い手厚い融資支援を継続している。
113. <広島県 不動産 >
前年同月比は不変である。8月末から国交省の地価公示評価作業が始まり、その他の一般評価依頼件数がやや増えている。依然として業者建売用地素地の供給が少ない状況が続いている。
114. <佐賀県 ソフトウェア >
停滞していた営業活動が再開した。来年度予算は12月迄には公的機関は確定、また、民間企業も来年1～2月までに来年度予算確保の動きとなるため、この時期の営業活動は重要である。